

ボードレスな通信基盤の開発による機器リソース融通と 在宅医療包括ケアシステムの実現 概要

研究代表者 : 大塚孝信(名古屋工業大学) 研究開発期間 : 令和5年度~令和6年度
参画研究機関名 : 名古屋大学・新城市民病院・株式会社ケアコム・大成建設株式会社・株式会社Philips・八神製作所・協和医科器械株式会社



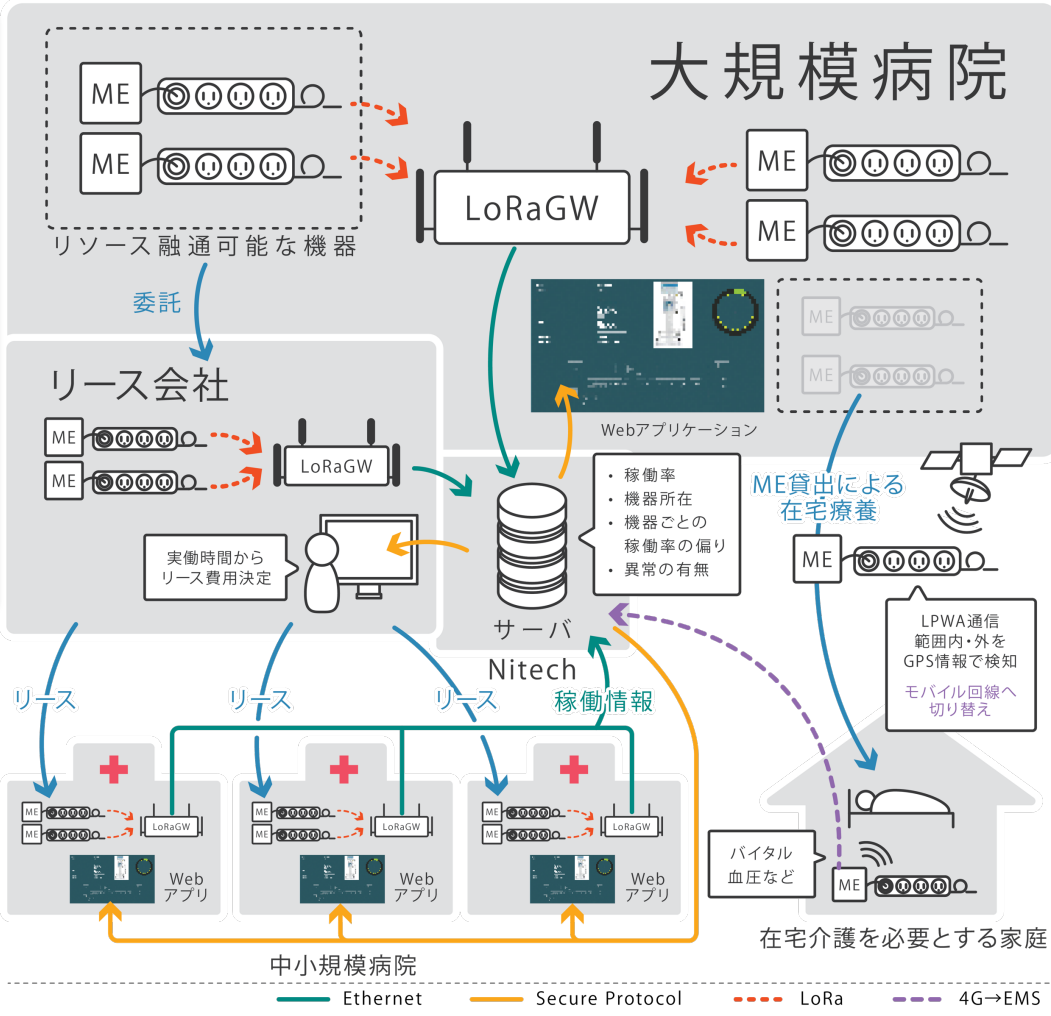
- 医療機器が接続する電源タップに対して測位機能・電流使用量測定機能を付与
 - 病院内のWi-Fi電波を利用して測位し、データ送信には混信を避けるためLPWA通信を用いてデータ集約
 - Webアプリケーションにより医療機器の所在、稼働率を可視化
 - 臨床技士の負担を軽減
- 病院内の機器台数・配置が定量的に評価可能となった

大規模病院ニーズ
急患対応のための機器マージンを平常時にも活用したい
耐用年数が決められている医療機器を有効に活用する必要がある

中小規模病院ニーズ
地域格差のない公平な医療サービス提供の実現が難しい
資金、管理人材の不足から医療機器保有台数が増やせない

自治体・地域包括ケアニーズ
医療費・医療資源消費を抑えるための入院日数低減が急務
医療機器の貸出による在宅療養や訪問診療が可能な体制が必要

患者・家族ニーズ
入院日数の短縮、在宅療養には不安が多い
急変や災害時対応、機器の取り扱いなどのサポートに対する不安



場所や通信環境にとらわれないボードレスな通信と
社会インフラであるスマートメータ回線網を利用した
社会全体のリソース融通基盤の構築を目指す